

Tamenund の役割

肴 倉 宏

Tamenund's Role

Hiroshi Sakanakura

抄 録

自然とそれを覆う闇は、*The Last of the Mohicans* を構成する重要な要素であるだけでなく、作品のテーマを支える重要な意味も与えられている。自然と闇は、それぞれ、善と悪を象徴的に示している。Tamenund は、Magua を悪の化身そして Uncas をメシヤと認識している。彼は、また、Magua が Cora に対して権利をもっていることも Uncas が Cora に対して権利をもっていないことも理解する。彼は、二つの正義のどちらかを選ばなければならない悲劇的人物である。悲劇的人物 Tamenund は、Uncas による救済劇を完成させる重要な役割を果たしている。

キーワード：ジェームス・フェニモア・クーパー、「モヒカン族の最後の者」、タメナンド、悲劇的人物

(1996年8月31日 受理)

Abstract

The contrast between nature and the darkness covering it constitutes both structural and thematic frames for *The Last of the Mohicans*. Nature symbolizes good while the darkness symbolizes evil. Tamenund recognizes Magua as an evil person and Uncas as a Messianic person. He, also, understands that Magua has a right to Cora and that Uncas does not have a right to her. Tamenund is a tragic character who chooses between two kinds of justice. He plays an important role to complete the salvation drama by Uncas.

Key words: James Fenimore Cooper, *The Last of the Mohicans*, Tamenund, a tragic character

(Received August 31, 1996)

批評家たちは、*The Last of the Mohicans* (1826) の Tamenund を取り上げて論じない。彼等は、Tamenund が Uncas や Natty Bumppo に比べてたいした意味を与えられていないと考えているのだろう。批評家たちは、Tamenund を物語の終わり近くに現れる Delaware 族の最長老と単に考えて片付けているのであろう。しかし、闇に覆われた舞台の中で Tamenund を捕らえ直してみるとどうなるであろうか。闇に覆われた舞台の中で捕らえ直してみると、そこには象徴的な意味を与えられた新しい人間像が浮かび上がるだけでなく Tamenund の果たしている重要な役割も浮かびあがってくるように思えるのである。そして、*The Last of the Mohicans* の最初の 3 章は、重要な意味をもってくるように思えるのである。

Cooper は、最初の 3 章で Tamenund に与えた意味を明らかにするために必要な準備をしている。まず重要なのは、物語の舞台を設定することである。雄大な自然が読者の眼前に展開する。Cooper は、第 1 章の冒頭で自然との戦いが敵対するもの同志の戦いに先立つと述べている。続いて、Cooper は、対決する英・仏両軍の大部隊が広大な森林に飲み込まれている様子を描いて “the forest. . . appeared to swallow up the living mass which had slowly entered its bosom.” (15)⁽¹⁾ と述べている。敵・味方両軍を飲み込んでしまう自然の広大さが強調されているのである。

Cooper は、自然の物理的な広大さを強調するだけでない。彼は、自然が象徴的な意味も与えられていることを示そうとする。Howard Mumford Jones は、Cooper のパノラマ的な自然描写が Hudson River School に属すると言われている画家たちの自然描写と共通していることを指摘した上で、両者が描こうとしたことは、“the grandeur of God working in the universe”⁽²⁾ であると述べている。Cooper は、神が自然を通して自らを啓示するということを示そうとしたのだ。従って、Cooper の描く自然は、それを見る者の心の中に “the awe or humility”⁽³⁾ をもたらすものなのだ。Cooper の描く舞台を構成する自然は宗教的な意味を持つ信仰の対象とされるものなのである。

神の啓示としての Cooper の自然は、同時に作品の舞台を構成するもう一つの重要な要素である死と闇の覆うところでもある。それは、英・仏両軍が植民地支配の覇を競いあって死闘を繰り広げている “the bloody arena” (12) でもあるのだ。そして、死体が累々と続く森林地帯は、闇に包まれている。Cooper は、森林地帯を “an impervious boundary of forest” (11) や “the interminable forests” (13) と描き、森の中は光を通さず昏くお薄暗いという。Cooper の作品には、物語が夕方から始まって夜へと進むものが多い。*The Last of the Mohicans* でも冒頭の残照がすぐさま夜の闇にかき消されてしまうことで、森の中はより一層暗さを増す。この点について、Thomas Philbrick は、“almost always Cooper’s protagonists are hemmed in by darkness, mist, or the cover.”⁽⁴⁾ と述べている。闇に包まれ死体の転がる森は、まるで墓場のような不気味な様子をしているのである。

Cooper は、死臭を漂わす闇を一人のインディアンと結び付けて描いている。読者は、このインディアンの名前が Magua であると知らされるのだが、彼は物語が始まるとすぐに大自然の舞台に登場するのである。夕暮れに Edward 砦に “the unwelcome tidings” (17)

をもって現れたこのインディアンは、これからすぐに訪れる不吉な闇の前触れなのである。Cooper は、この男と闇の結び付きを強調する。この男の表情は、闇のように暗い。そればかりか、Magua の表情の暗さは、見る者にただならぬ嫌悪感すら与えている。Cooper は、彼の表情を次のように描いている。

The colours of the war-paint had blended in dark confusion about his fierce countenance, and rendered his swarthy lineaments still more savage and repulsive, than if art had attempted an effect. (18)

Cooper は、Magua の暗さが顔にぬった絵の具の効果だけによるものではないという。こうして、Cooper は、Magua の表情に浮かぶ暗さがこの男の本質に根ざしていることを暗示している。

Cooper は、物語の進行につれて Magua の本質を読者に明らかにする。そして、彼は舞台を包む闇の性質を明らかにしてゆくのである。Magua は、倫理的に墮落したインディアンとして描かれている。彼は、白人と接触し“the fire-water” (102) を飲むことを覚え、“a rascal” (102) になり下がったのだ。文明と接触し宗教的な意味を与えられている自然との関係を失ったことが、彼の墮落の原因なのである。やがて、Magua は、大虐殺を引き起こした首謀者として読者の前に現れる。第17章の William Henry 砦の虐殺の場面は、イギリス軍の将兵とともに婦人や子供までがインディアンに殺された歴史的に有名な事件である。Cooper は、この事件と Huron 族を結び付ける。Huron 族が大量殺戮を行ったのだと言う。そして、Cooper の Magua は、Huron 族を操って彼等にイギリス軍の将兵と婦人や子供を襲撃させ虐殺させたのである。森林地帯に転がる死体は、血に飢えた Magua の暗躍の結果なのである。Magua は、“the dusky savage the Prince of Darkness, brooding on his own fancied wrongs, and plotting evil” (284) なのである。Magua は、悪の化身なのだ。大自然という舞台は、倫理的腐敗を隠蔽し悪の跳梁を許す象徴的な意味を帯びた闇に覆われているのである。

Cooper は、まず初めに物語の舞台を設定した。宗教的な意味が与えられた自然は、背後におしやられその表面を倫理的腐敗を隠す闇が覆っている。Magua が君臨する舞台は、James Franklin Beard がいうように“his [man's] fallen state”⁽⁵⁾ なのである。こうして、Cooper は、これから闇に覆われた舞台で起こる事柄にまつわる問題の中心が悪の認識に関するものであることを暗示するのである。

Tamenund が、倫理的腐敗を隠し悪の跳梁を許す闇に覆われた舞台に登場する。彼は、白人からもインディアンからも“this wise and just Delaware” (293) として尊敬されている Delaware 族の最長老である。彼の思慮深さと正義感は、部族の枠を超えて知られているのである。思慮深く公平な Tamenund が闇に覆われた舞台に登場したのには、悪の化身 Magua が絡んでいるのだ。Magua が Delaware 族の幕営地に來たのは、目の仇にしている Natty Bumppo を殺そうという邪悪な企みをもっているからなのだ。そのために、Magua は、Delaware 族の弱みを利用する。Delaware 族は、フランス軍の味方なのだけけれどイギリス軍の William Henry 砦を攻撃する戦闘に参加しなかったのだ。フランス側

は、Delaware 族に不信感を抱いているのだ。Magua は、彼等の政治的な弱点を衝く。彼は、Delaware 族がフランス軍に“La Longue Carabine” (291) として恐れられている Natty Bumppo をかくまっているというのだ。彼は、Delaware 族がフランスに対して裏切り行為を働いていると告発するのだ。さらに、Magua は、Natty Bumppo が Huron 族だけでなく Delaware 族のインディアンも多数殺した張本人だと嘘をつき Delaware 族の Natty Bumppo に対する敵意をあおる。Magua の告発に驚いた Delaware 族は、恐るべき敵“La Longue Carabine” (291) を Tamenund に裁いてもらおうとするのである。部族の長老たちの要請に答えて、Tamenund は、“the seat of judgment” (294) につくのだ。これから次々と描かれていく裁判の場面では、思慮深く公平な Tamenund が悪の化身 Magua に試されていくのである。

Tamenund は、まず、誰が“La Longue Carabine” (291) かを裁くのである。Delaware 族にかくまわれている Duncan Heyward と Natty Bumppo が、Tamenund の前に連れてこられる。どちらも、自分が“La Longue Carabine” (291) であると主張して譲らない。Delaware 族は、そのため二人に射撃の腕の競いあいさせる。競いあいの結果、Natty Bumppo が“La Longue Carabine” (291) であると判明する。裁判官 Tamenund は、Natty Bumppo を“The pale-face has slain my young men; his name is great for the blows he has struck the Lenape.” (312) と言って非難する。しかし、Natty Bumppo は、次のように言って Tamenund に抗弁する。

If a Mingo has whispered that much in the ear of the Delaware, he has only shown that he is a singing-bird... That I have slain the Maquas, I am not the man to deny, even at their own council fires; but that, knowingly, my hand has ever harmed a Delaware, is opposed to the reason of my gift, which is friendly to them, and all that belong to their nation. (312)

Natty Bumppo は、Huron 族を殺したことは否定しないけれども Delaware 族を殺したことはないと断言する。Natty Bumppo の弁明は、Magua が Delaware 族に嘘をついて彼等を利用しようとしていたことを明らかにする。彼の弁明は、Magua の邪悪な目的を暴露するのだ。Tamenund は、だまされていたことに気付き、“Where is the Huron?... Has he stopped my ears!” (312) と言って Magua に怒りを表すのだ。Tamenund は、Delaware 族を利用して無実の Natty Bumppo を殺させようとしていた Magua の邪悪な意図を知るのだ。Tamenund は、Magua を悪の化身と認識するのである。

Tamenund に悪の化身と見破られた Magua は、悪びれもせず Tamenund にもう一つの要求をする。彼が Delaware 族の所に来たのは、Natty Bumppo を殺そうという目的からだけでない。彼は、もう一つの目的をもっているのだ。それは、William Henry 岩陥落直後の混乱の中で捕虜にした Cora Munro を返してもらうことなのだ。Magua は、Huron 族が Delaware 族に対して友好的であると見せかけるために Cora を一時的に Delaware 族に預けていたのである。Cora に関して“a conqueror's right” (312) を持つ Magua は、Tamenund に Cora を返してくれと要求する。実際、彼は、Tamenund に

“Justice. His prisoners are with his brothers, and he comes for his own.” (302) と訴える。Magua は、自分の権利を認めるように訴えるのだ。悪の化身 Magua は、思慮深く正義感にあふれる Tamenund に正義を求めているのだ。彼の要求は、Tamenund に難しい選択を迫るのである。Cora を Magua に返さなければ、Tamenund の正義に対する名声は失墜し、社会を支えている法的な秩序は崩壊し社会は無法状態になる。Cora を Magua に返せば、Tamenund は悪の化身 Magua に屈してしまうことになる。Tamenund がどちらを選んでも彼にとって好ましい結果は、何ひとつないのだ。彼がどちらを選んでも選択の結果に苦しまなければならないのである。悪の化身 Magua は、思慮深く公平な Tamenund を窮地に追い込むのである。

Tamenund は、窮地に追い込まれていることを知っている。彼は、一瞬、悪の化身 Magua をじっと見ている。実際、Cooper は、Tamenund の様子を “Then facing the applicant, he [Tamenund] regarded him a moment with deep attention.” (302) と描いている。Tamenund は、悪の化身 Magua の邪悪な意図を見抜いているのだ。その上で、彼は、“in a low and reluctant voice” (302) で Magua に次の様にいう。

Justice is the law of the Great Manitto. My children, give the stranger food. Then, Huron, take thine own, and depart. (302)

Tamenund は、法的・社会的権利を守ることも神の定めた正義であると判断している。このように考える Tamenund は、たとえ Magua を悪の化身と認識していたとしても彼の権利を否定することができないのである。彼は、渋々、Magua の権利を認め Cora を返すことに決定する。彼は、法を無視し社会を混沌に落とし込む責任を回避することができた。しかし、それと引換に、彼は、悪の化身 Magua に屈してしまうのである。“this wise and just Delaware” (293) として尊敬されている Tamenund にしても悪の化身 Magua が巧妙に仕掛けた罠にはまり込んでしまうのである。Tamenund は、悪に蝕まれているのである。

Tamenund に自分の運命を決められる Cora は、Tamenund の判決を聞いて彼に訴える。Cora は、Tamenund の正義感に訴えるのだ。その時の Cora の様子を Cooper は、次のように描いている。

Cora had cast herself to her knees, and with hands clenched in each other, and pressed upon her bosom, she remained like a beautiful and breathing model of her sex, looking up in his faded, but majestic countenance, with a species of holy reverence. (303)

Cora は、威厳に満ちた Tamenund に畏敬の念を抱いている。彼女は、Tamenund を神のような存在としてみている。Cora は、Tamenund に悪を裁く裁判官の役割を期待しているのだ。そして、彼女は、次のように Tamenund にいうのである。

Just and venerable Delaware, on thy wisdom and power we lean for mercy! Be deaf to yonder artful and remorseless monster, who poisons thy ears with falsehood, to feed his thirst for blood. Thou, that hast lived long, and that hast

seen the evil of the world, should know how to temper its calamities to the miserable. (303)

Cora は、悪の化身 Magua の要求に耳を傾けないで欲しいと Tamenund にいう。さらに、彼女は、悪から受ける苦しみを和らげて欲しいと訴えるのである。彼女は、宗教的・倫理的正義を求めているのだ。Cora の要求は、Magua の場合と同様に Tamenund を困難な選択に直面させる。Cora の主張を認めれば、Tamenund は、法的・社会的正義を守り得ない。逆に、Cora の訴えを無視すれば、Tamenund は宗教的・倫理的正義を実現できない。Tamenund は、法的・社会的正義か宗教的・倫理的正義のどちらかを選ばなければならないのである。

Tamenund は、法的・社会的正義を選ぶ。彼は、宗教的・倫理的正義を選ばないのである。彼の選択の結果は、Cora と Tamenund の対話を通して示されている。Cora は、Tamenund に“Tell me, is Tamenund a father?” (305) と尋ねる。Tamenund は、Cora に対して“Of a nation” (305) と答える。彼は、Delaware 族の父であるという。しかし、彼は、父なる神のような存在であることを否定しているのだ。悪に蝕まれていることを自覚している Tamenund は、自分も神の審判の前に立たされている人間であることをしっかりと認識しているのである。この認識をもつ Tamenund が裁ける正義は、宗教的・倫理的正義でなく法的・社会的正義なのだ。彼のこの選択は、Cora を絶望させてしまうのである。Tamenund の法的・社会的正義は、悪に蝕まれている Tamenund と同様に完全なものではないのである。

Cora は、彼女を絶望させた Tamenund を非難しない。むしろ、彼女は、Tamenund に理解と共感を示している。Cora は、“The tresses of this lady were shining and black, like the plumage of the raven.” (19) と描かれている。彼女の黒髪は、Cora が白人の父 Munro と黒人の血を引く母との間に生まれた混血の娘であることを示している。しかし、彼女の黒髪は、人種的特徴を表すだけでなく象徴的な意味も与えられている。彼女の黒髪は、Cora が悪の化身 Magua の暗さに象徴的に示された悪に生まれながらに捕らえられていることを示している。Cora は、悪に蝕まれていることを自覚しているのだ。⁶⁾ このような Cora は、裁判の過程を通して Tamenund が悪の化身 Magua の策略に陥っていく様子を見ていた。彼女は、Tamenund も悪に蝕まれていることを理解するのだ。そして、彼女は、Tamenund に“*For myself I ask nothing. Like thee and thine, venerable chief. . . the curse of my ancestors has fallen heavily on their child!*” (305) という。Cora は、Tamenund も Delaware 族も彼女と同じように先祖の犯した罪の呪いを受けているというのである。彼女は、自分も Tamenund も共に悪の存在ゆえに苦しんでいるという。彼女は、Tamenund に共感するのだ。そして、彼女は、悪の化身 Magua に従おうとする。その前に彼女は、Tamenund に最後の願いをいう。彼女は、Delaware 族にかくまわれている一人のインディアンの言い分を聞いて欲しいという。Tamenund は、Cora の願いを聞き入れる。こうして、Uncas が Tamenund の前に連れてこられるのである。

Tamenund は、最初、同じ言葉を話す Uncas を部族の裏切り者と考えるのだ。実際、彼

は、Uncas に次の様にいう。

Delaware. . . little art thou worthy of thy name. My people have not seen a bright sun in many winters; and the warrior who deserts his tribe, when hid in clouds, is doubly a traitor. (308)

Tamenund は、困っている部族を見捨てた Uncas を非難するのだ。しかし、Uncas は、彼の非難にも全く動ぜず“in the softest notes of his own musical voice” (308) と述べられた音楽的な声で“The singing-birds have opened their bills. . . and Tamenund has heard their song.” (308) と語りかけるのだ。Uncas の音楽的な声は、象徴的な意味を与えられている。彼の音楽的な声は、宗教的な意味を与えられた自然の美しさを表しているのだ。Uncas は、メシヤなのである。⁽⁷⁾ Tamenund は、Uncas の美しい声に驚き、次の様にいう。

Does Tamenund dream! . . . What voice is at his ear! Have the winters gone backward! Will summer come again to the children of the Lenape! (308)

Tamenund は、Uncas の美しい声に希望を読み取るのである。彼は、Uncas の美しい声を聞いて彼に対する認識を改めるのだ。Tamenund は、Uncas をメシヤと認識するのである。

Tamenund は、メシヤ Uncas に民族の希望を託すのである。彼は、凜しい Uncas の姿を見ながら次の様にいう。

Have I dreamt of so many snows — that my people were scattered like floating sands— of Yengeese, more plenty than the leaves on the trees! The arrow of Tamenund would not frighten the fawn; his arm is withered like the branch of a dead oak; the snail would be swifter in the race; yet is Uncas before him, as they went to battle, against the pale-faces! Uncas, the panther of his tribe, the eldest son of the Lenape, the wisest Sagamore of the Mohicans! Tell me, ye Delawares, has Tamenund been a sleeper for a hundred winters? (301)

Tamenund は、民族の置かれていた状況を思い返している。Delaware 族は、白人たちに土地を奪われ追い払われた。彼等は、今また、大国フランスに政治的に従属し強力な Huron 族に囲まれている。Delaware 族の長老である Tamenund は、弱小部族の悲哀をなめ尽くしてきたのである。彼が Magua の権利を認めざるを得なかった理由は、Delaware 族の置かれている状況とも関係している。彼が民族を存続させようとするれば、政治的弱点を利用する悪の化身 Magua のいいなりにならざるを得ないのだ。Tamenund は、Uncas に民族が味わってきた屈辱を跳ね返してくれることを期待している。Tamenund は、メシヤ Uncas を民族の解放者として期待するのである。

悪の化身 Magua は、メシヤ Uncas の出現に危機感を感じるのだ。彼は、Cora に関する権利を認めた Tamenund の判決がメシヤ Uncas の出現で反故にされるのではないかと心配するのだ。そのため、彼は、再度、Tamenund に Cora に関する彼の権利のことを持ち出すのだ。彼は、Tamenund に“The just Tamenund. . . will not keep what a Huron

has lend.” (312) という。Magua は、Tamenund に念を押すのだ。Magua の再度の要求に対して Tamenund は、Uncas に尋ねる。彼は、Magua が Delaware 族にかくまわれている者に対して権利をもっているかどうかを Uncas に聞くのだ。その時、Tamenund は、“avoiding the dark countenance of le Subtil, and turning gladly to the more ingenuous features of Uncas” (312) と描写されているように、邪悪な Magua の顔を避け善良な Uncas の顔を見ながらたずねるのである。Tamenund は、メシヤ Uncas が Magua の権利を否定してくれるものと期待しているのである。

しかし、結果は、Tamenund の期待しているものとは違うのである。Uncas は、Cora を除いた他の人達に関する Magua の権利をことごとく否定する。そのつど、Tamenund は Uncas への期待を強めてゆく。彼は、最後に、Cora に関する Magua の権利を Uncas に尋ねる。しかし、Uncas は、答えず沈黙するのだ。Uncas は、William Henry 砦の陥落直後の混乱の中で Cora を捕虜にした Magua の権利を認めざるを得ないのである。Tamenund に再度聞かれたとき、Uncas は “It is so.” (313) と言って Magua の権利を認めるのだ。Tamenund は、メシヤ Uncas が Cora に対して権利をもっていないことを知るのだ。この事実は、Tamenund を再び困難に直面させる。メシヤ Uncas を好ましく見ていた Tamenund が Magua の権利を否定すれば、彼は、法的・社会的正義を実現できない。逆に、Tamenund が Magua の権利を認めれば、彼は、メシヤ Uncas の体現している宗教的・倫理的正義が無力であることを証明することになる。Tamenund は、次元の事なる二つの正義のどちらかを選ばなければならないのである。彼は、困難な選択を回避することなく “Huron, depart.” (313) と判断を下す。彼は、法的・社会的正義を選ぶのだ。

これまで見てきたように、Tamenund は、常に次元の異なる二つの正義のどちらかを選ばなければならないのである。彼は、法的・社会的正義か宗教的・倫理的正義かを選ばなければならないのだ。この選択を迫られる Tamenund は、悲劇作品の人物のようである。二つの正義のどちらかを選ばなければならない Tamenund は、悲劇的な人物なのだ。しかも、彼は、困難な選択に直面しても決して弱音を吐くような人物として描かれていない。このような Cooper の筆致は、Tamenund の悲劇性を一層強調する。

悲劇的人物 Tamenund の決定は、Uncas を Magua との最終的な戦いにかりたてることになる。Uncas は、勝ち誇って Cora を連れ去る Magua に次の様にいう。

Huron, the justice of the Delawares comes from the Manitto. Look at the sun. He is now in the upper branches of the hemlock. Your path is short and open. When he is seen above the trees, there will be men on your trail. (316-317)

Uncas は、正午を期して Magua を攻撃するというのだ。彼は、Cora を Magua から取り戻すというのだ。彼は、Cora を悪の化身 Magua から開放するというのだ。第31章と第32章で描かれている Uncas と Magua の戦いは、一見すると Delaware 族と Huron 族の存亡をかけた民族の抗争のように思える。しかし、彼等の戦いは、象徴的な意味が与えられているのだ。彼等の戦いは、メシヤ Uncas と悪の化身 Magua との超自然的な戦いなのである。この戦いにおいて Uncas は、Magua に殺されてしまうのである。彼の死は、悪の化

身 Magua に捕らえられている Cora を悪の呪縛から解放し魂の負っている傷を癒し人間性を回復させるための死なのである。彼の死は、メシヤ的使命を果たすための死なのである。Tamenund は、Uncas をメシヤと認識していた。彼は、Uncas を政治的抑圧からの解放者として期待していた。しかし悲劇的人間 Tamenund の決定は、Tamenund が Uncas に期待していたのとは異なるもう一つのメシヤ性を Uncas に果たさせているのである。

悲劇的人物 Tamenund は、自分が Uncas にもう一つのメシヤ性を果たさせていることに気が付いていないのである。彼は、Uncas を民族の解放者として考えていた。このような Tamenund にとって、Uncas の死は民族の希望を打ち砕いてしまうことになる。実際、*The Last of the Mohicans* の物語の最後は、Tamenund の嘆きの言葉で締めくくられている。彼は、Uncas の亡骸を前に次の様にいう。

Go, children of the Lenape; the anger of the Manitto is not done. Why should Tamenund stay? The pale-faces are masters of the earth, and the time of the red-men has not yet come again. My days has been too long. In the morning I saw the sons of Unamis happy and strong; and yet, before the night has come, have I lived to see the last warrior of the wise race of the Mohicans! (349-350)

Tamenund は、Delaware 族が再び民族の栄光を見ることはあるまいという。彼は、Uncas の死に民族の暗澹たる未来を感じているのだ。Tamenund は、最後まで Uncas を悪からの人間の解放者として理解していない。しかし彼は、自分では気付かずに Uncas による救済劇を完成させているのである。確かに、Uncas の死は、Uncas の父 Chingachgook によって第3章で予表されていた。その予表されていた救済劇を完成させる上では、Tamenund の存在は不可欠なのである。予表されていた救済劇の完成には、悲劇的人間 Tamenund の関与が必要なのである。こうして、Cooper は、Delaware 族の未来に絶望している Tamenund にも救いが与えられることを暗示しているのである。Cooper が悲劇的人間 Tamenund を描いたのは、人間の悲劇性が救いを必要とすることを強調したかったからであろう。

注

- (1) James Fenimore Cooper *The Last of the Mohicans; A Narrative of 1755* (Albany: State University of New York Press, 1983) 本論中の作品からの引用は、すべてこの版による。なお、() ないの数字は、そのページを示す。
- (2) Howard Mumford Jones *History and The Contemporary: Essays in Nineteenth-Century Literature* (Madison: The University of Wisconsin Press, 1964) 72
- (3) Donald A. Ringe *The Pictorial Mode: Space and Time in the Arts of Bryant, Irving and Cooper* (Lexington: The University of Kentucky, 1971) 44
- (4) Thomas Philbrick "The Last of the Mohicans and the Sounds of Discord" *American Literature*, 43 (1971) 31
- (5) James Franklin Beard "Afterword," *The Last of the Mohicans* (New York: New American Library, 1962) 424

大阪女学院短期大学紀要第26号(1996)

- (6) 拙論「Cora Munro の死の意味」大阪女学院短期大学紀要第24・25号(1995) 77-87
- (7) 拙論「時間の中心 Uncas—クーパーの描いたメシヤ像—」大阪女学院短期大学紀要第19号(1988) 87-103